Microsoft System Center 2012、2012 SP1、および 2012 R2 の Operations Manager 向け Cisco UCS 管理パック ユーザ ガイド

初版：2016 年 05 月 03 日

シスコシステムズ合同会社
〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー
http://www.cisco.com/jp
お問い合わせ先：シスコ コンタクトセンター
0120-092-255 （フリーコール、携帯・PHS含む）
電話受付時間：平日 10:00～12:00、13:00～17:00
http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/

【注意】シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意（**www.cisco.com/jp/go/safety_warning/**）をご確認ください。本書は、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。

© 2016 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.

目 次

はじめに 1

対象読者 1

表記法 1

Cisco UCS の関連ドキュメント 3

マニュアルに関するフィードバック 4

マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート 4

概要 5

Cisco UCS Central 管理パックについて 5

システム要件 5

はじめに 7

主な機能 7

Cisco UCS Central 管理パックの設定 9

Cisco UCS Central 管理パックの設定に関するチェックリスト 9

Operations Manager への Cisco UCS Central の追加 10

アカウントの作成 13

実行アカウントのプロファイルへの関連付け 13

エラー確認の設定 15

エラー確認の概要 15

解決状態の作成 15

チャネルの作成 16

サブスクライバとサブスクリプションの作成 17

Windows ファイアウォール インバウンド ルールの作成 17

Cisco UCS Central 管理パックのカスタマイズ 19

Cisco UCS Central 管理パックのカスタマイズの概要 19

Cisco UCS Central インスタンス オブジェクト ディスカバリ 20

Cisco UCS Central Root（オブジェクト ディスカバリ） 20

オブジェクト ディスカバリのオーバーライド 21

PowerShell コマンドレットを使用したオブジェクト ディスカバリのオーバーライド 21
ルール 21
ルールの事前設定 22
PowerShell コマンドレットを使用したルールの有効化 23
重大度のマッピング 23
管理パック内のルールの一覧表示 23
ルールのオーバーライド 24
Cisco UCS Central から別のモニタリング サービスへの移行 24
Operations Manager を使用した Cisco UCS Central のモニタリング 25
Operations Manager の [Monitoring] ペインについて 25
管理パック内のルールの一覧表示 25
Cisco UCS のモニタリングについて 26
Cisco UCS モニタリング サービス 26
サービスの開始 27
サービスの停止 27
Cisco UCS Central モニタリング ダッシュボード 28
UCS Central GUI の起動 28
UCS Central インベントリ データのロード 29
UCS Central への ping 29
UCS への継続的な ping 30
論理インベントリ 30
組織の詳細情報の表示 30
アラート操作 31
UCS 障害の確認応答 31
アラートの専門知識項目の表示 32
アラートのクリア 32
Cisco UCS Central 管理パック向け PowerShell コマンドレット 33
PowerShell モジュールからのコマンドレットのインポート 33
UCS Central インスタンスの追加または更新 34

第 1 章

はじめに

この前書きは、次の項で構成されています。

- 対象読者，1 ページ
- 表記法，1 ページ
- Cisco UCS の関連ドキュメント，3 ページ
- マニュアルに関するフィードバック，4 ページ
- マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート，4 ページ

対象読者

このガイドは、次の 1 つ以上に責任を持つ、専門知識を備えたデータセンター管理者を主な対象にしています。

- サーバ管理
- ストレージ管理
- ネットワーク管理
- ネットワーク セキュリティ

表記法

このマニュアルでは、次の表記法を使用しています。

表記法	説明
太字	コマンド、キーワード、およびユーザが入力するテキストは、太字で表示されます。

表記法	説明
イタリック体	文書のタイトル、新規用語、強調する用語、およびユーザが値を指定する引数は、イタリック体で示しています。
[ ]	角カッコの中の要素は、省略可能です。
{ x | y | z }	どれか 1 つを選択しなければならない必須キーワードは、波カッコで囲み、縦棒で区切って示しています。
[x | y | z]	どれか 1 つを選択できる省略可能なキーワードは、角カッコで囲み、縦棒で区切って示しています。
string	引用符を付けない一組の文字。string の前後には引用符を使用しません。引用符を使用すると、その引用符も含めて string とみなされます。
`courier` フォント	システムが表示する端末セッションおよび情報は、`courier` フォントで示しています。
<>	パスワードのように出力されない文字は、山カッコ（<>）で囲んで示しています。
[ ]	システムプロンプトに対するデフォルトの応答は、角カッコで囲んで示しています。
!、#	コードの先頭に感嘆符（!）またはポンド記号（#）がある場合には、コメント行であることを示します。

（注）「注釈」です。役立つ情報やこのマニュアルに記載されていない参照資料を紹介しています。

ヒント「問題解決に役立つ情報」です。ヒントには、トラブルシューティングや操作方法ではなく、ワンポイントアドバイスと同様に知っておくと役立つ情報が記述される場合もあります。

注意「要注意」の意味です。機器の損傷またはデータ損失を予防するための注意事項が記述されています。

ワンポイント アドバイス

「時間の節約に役立つ操作」です。ここに紹介している方法で作業を行うと、時間を短縮できます。

警告

安全上の重要事項

「危険」の意味です。人身事故を予防するための注意事項が記述されています。機器の取り扱い作業を行うときは、電気回路の危険性に注意し、一般的な事故防止対策に留意してください。警告の各国語版については、各警告文の末尾に提示されている番号をもとに、この機器に付属している各国語で記述された安全上の警告を参照してください。

これらの注意事項を保存しておいてください。

Cisco UCS の関連ドキュメント

ドキュメント ロードマップ

詳細については、次のリンクから関連資料を参照できます。

- Cisco UCS Manager Management Pack User Guide, Release 4.x
- Cisco IMC Management Pack User Guide, Release 4.x
- Cisco Central Management Pack User Guide, Release 4.x
- Cisco UCS Management Pack Suite Installation and Deployment Guide, Release 4.x
- 『Cisco UCS Documentation Roadmap』
- 『Cisco UCS C-Series Documentation Roadmap』
- Cisco UCS Central 構成ガイド

その他のマニュアル リソース

B シリーズおよび C シリーズのすべてのドキュメントを含む ISO ファイルは、次の URL から入手できます。https://software.cisco.com/download/type.html?mdfid=283853163&flowid=25821 このページで、[Unified Computing System (UCS) Documentation Roadmap Bundle] をクリックします。

ISO ファイルは、ドキュメントのメジャー リリースの後に更新されます。

ドキュメントの更新通知を受け取るには、Twitter の『Cisco UCS Docs』をフォローしてください。

マニュアルに関するフィードバック

このマニュアルに関する技術的なフィードバック、または誤りや記載もれなどお気づきの点がございましたら、HTML ドキュメント内のフィードバック フォームよりご連絡ください。ご協力をよろしくお願いいたします。

マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート

マニュアルの入手、サービス要求の提出、および追加情報の収集については、下記URLの『*What's New in Cisco Product Documentation*』を参照してください。
http://www.cisco.com/en/US/docs/general/whatsnew/whatsnew.html.

『*What's New in Cisco Product Documentation*』は、シスコの新規および改訂版の技術マニュアルの一覧も示し、RSS フィードとして購読できます。また、リーダー アプリケーションを使用してコンテンツをデスクトップに配信することもできます。RSS フィードは無料のサービスです。

第 2 章

概要

この章の内容は、次のとおりです。

- Cisco UCS Central 管理パックについて，5 ページ
- システム要件，5 ページ

Cisco UCS Central 管理パックについて

管理パックは、事前定義のモニタ設定が含まれている定義ファイルで、これによりエージェントはOperations Manager内の特定のサービスをモニタすることができます。これらの事前定義の設定には、検出情報が含まれています。これにより Operations Manager は、モニタ サービスとアプリケーションを自動的に検出および開始します。また、エラーおよびトラブルシューティング情報、アラート、レポートを含むナレッジ ベースで構成され、環境内で検出された問題を解決するのに役立ちます。

Cisco UCS Central 管理パックには、複数の Cisco UCS Central にまたがるグローバル サービス プロファイルと組織をモニタリングするルールがあります。使いやすいインターフェイスでのヘルスステータスとアラートの表示が実現されています。

システム要件

以下のシステム要件は、Cisco UCS モニタリング サービスが稼働する管理サーバ、ゲートウェイサーバ、または Operation Manager Windows エージェント（信頼境界または非信頼境界）に対するものです。

管理サーバおよびゲートウェイ サーバ

管理サーバとゲートウェイ サーバのシステム要件は、次の Microsoft ベスト プラクティスに従います。 http://technet.microsoft.com/en-us/library/hh205990.aspx

Operations Manager Windows エージェント

以下のシステム要件は、Cisco UCS モニタリング サービスが稼働する、信頼境界または非信頼境界の Windows エージェントに対するシステム要件です。

ハードウェア

- プロセッサ アーキテクチャ：64 ビット、クアッドコア以上
- メモリ：8 GB 以上
- 空きディスク領域：50 MB 以上
- ネットワーク接続：1 MBps 以上

オペレーティング システム

次のオペレーティング システムの 64 ビット バージョンが、最新のサービス パックとともにインストールされていることを確認してください。

- Windows Server 2008 R2
- Windows Server 2012
- Windows Server 2012 R2

Software

Cisco UCS モニタリング サービスを管理サーバにインストールする前に、次のソフトウェア コンポーネントをインストールしておきます。

- Windows PowerShell 3.0 以降
- .NET Framework 4.0 以降

サポートされる UCS Central リリース

Microsoft System Center Operations Manager 用の Cisco UCS Central 管理パックは、次の Cisco Central Manager リリースと互換性があります。

- リリース 1.3
- リリース 1.4

第 3 章

はじめに

この章の内容は、次のとおりです。

- 主な機能，7 ページ

主な機能

Cisco UCS Central 障害に対するルール

この管理パックは、 Cisco UCS Central の障害ごとに 1 つのルールを実装します。これにより、障害レベルでのカスタマイズ能力が向上します。優先順位や重大度などのパラメータをオーバーライドすることができ、Operations Manager コンソール インターフェイスからルールの有効化と無効化を実行できます。コンソール インターフェイスとは異なり、これらのカスタマイズすべてを Operation Manager のコマンドレットを使用して適用できます。一度に複数のルールで稼働する PowerShell スクリプトを開発することもできます。 UCS Central からの情報メッセージに対してはルールが実装されません。情報メッセージは Operations Manager の管理パックではキャプチャされません。ルールは事前に設定しておくことができます。UCS テンプレートを追加する前に、これらのルールの有効化または無効化が行えます。

UCS Central FSM の障害は一時的な障害であるため、このバージョンの Cisco UCS 管理パックではサポートされません。

デフォルトでは、管理パック内のすべてのルールが有効になっています。それらの障害に対してアラートを生成しないようにするには、ルールを無効化する必要があります。

モジュール化された管理パックの設計

Cisco UCS Central 管理パックを最適化するため、Cisco UCS コア ライブラリ管理パックに共通モジュールとワークフローが追加されました。

リアルタイムの UCS Central 障害監視

UCS Central のリアルタイム モニタリングをサポートします。たとえば、障害は Operations Manager で直ちにキャプチャされます。

強化されたインベントリ ビューとアラート ビュー

- UCS インベントリのダッシュボード ビュー
- アラート ダッシュボードでの、 Cisco UCS Central のアクティブ、確認済み、クリア済みアラートの個別ビュー
- 強化されたモニタリング サービスのダッシュボード ビュー

PowerShell コマンドレットのサポート

UCS Central 管理パックをサポートするコマンドレットが追加されました。

第 4 章

Cisco UCS Central 管理パックの設定

この章の内容は、次のとおりです。

- Cisco UCS Central 管理パックの設定に関するチェックリスト，9 ページ
- Operations Manager への Cisco UCS Central の追加，10 ページ
- アカウントの作成，13 ページ
- 実行アカウントのプロファイルへの関連付け，13 ページ

Cisco UCS Central 管理パックの設定に関するチェックリスト

1. Cisco UCS モニタリング サービスをホストする次のサーバ/コンピュータで、[Allow this server to act as a proxy and discover managed objects on other computers] オプションが有効化されていることを確認します。
   - エージェント管理されたコンピュータ（信頼境界）
   - 管理サーバ
   - エージェント管理されたコンピュータ（非信頼境界）
   - ゲートウェイ サーバ
2. Cisco UCS モニタリング サービスをホストするサーバとシステムすべてが、[Operations Manager Console] – [Monitoring] – [Cisco UCS Monitoring] – [Cisco UCS Monitoring Service] – [Monitoring Service Dashboard] に表示されることを確認します。
3. Cisco UCS モニタリング サービスをホストするサーバ/コンピュータが、[Operations Manager Console] – [Administration] – [Device Management] – [(Management Server / Agent Managed)] に検出され、正常な状態にあることを確認します。
4. [Add Monitoring Wizard] で UCS Central を追加した後に、該当する実行アカウントが適切な実行プロファイルに関連付けられていることを確認します。

5 実行アカウントの配信が [More Secure] に設定されているか確認します。Cisco UCS モニタリング サービスをホストするコンピュータは、[Selected Computers] リストに表示されている必要があり、かつ UCS Central のモニタリングに選択されたものと同じである必要があります。

6 Cisco UCS Central がゲートウェイ サーバ、またはエージェント管理されたコンピュータ（非信頼境界）を介してモニタリングされる場合、そのマシンから Cisco UCS Central に到達可能であることを確認します。

7 Operations Manager の**アクション アカウント**に、TEMP（%SystemRoot%\Temp）フォルダの読み書き権限があることを確認します。

Operations Manager への Cisco UCS Central の追加

Operations Manager コンソールまたは PowerShell コマンドレットを使用して、管理グループ内のすべての管理サーバから Cisco UCS Central インスタンスを追加できます。

ステップ 1 Operations Manager コンソールを起動します。

ステップ 2 [Authoring] > [Cisco UCS Central] を選択します。

ステップ 3 [Tasks] ペインで [Add Monitoring Wizard] をクリックします。

ステップ 4 [Monitoring Type] タブで、[Cisco UCS Central] をクリックします。

ステップ 5 [Next] をクリックします。

ステップ 6 [General Information] タブで、以下の内容を確認し、入力します。
[Connection] エリアで、次を入力します。

名前	説明
[IP Address/Hostname] フィールド	UCS Central インスタンスの IP アドレスまたはホスト名を入力します。
[Port Number] フィールド	Cisco UCS Central 設定時に [HTTP] または [HTTPS] で指定したポート番号を入力します。 デフォルトでは、セキュアな接続が確立されると、ポート番号が 443 に設定されます。非セキュアな接続では、ポート番号が 80 に設定されます。
[Connection Mode] チェックボックス	マークを付けると、セキュアな HTTPS 接続が確立されます。

[Proxy Server] エリアで、次を入力します。

名前	説明
[Enable Proxy Configuration] チェックボックス	マークを付けた場合、プロキシ サーバの詳細を入力できます。 次の詳細を入力します。 • [Host]：プロキシ サーバの IP アドレスを入力します。 • [Port]：プロキシ サーバへの接続に使用するポート番号を入力します。
[Enable Proxy Authentication] チェックボックス	マークを付けた場合、プロキシ サーバの認証を実行できるようになります。 次の詳細を入力します。 • [Username]：プロキシ サーバで設定したユーザ名を入力します。 • [Password]：プロキシ サーバのパスワードを入力します。

[Cisco UCS Monitoring Service] エリアで、次を入力します。

名前	説明
[Machine Type] ドロップダウンリスト	次のいずれかになります。 • [Agent Managed Computer (Trusted Boundary)] • [Agent Managed Computer (Untrusted Boundary)] • [Management Server] • [Gateway Server]
[Service Machine] ドロップダウンリスト	Cisco UCS モニタリング サービスがインストールされているマシンの FQDN を選択します。

ステップ 7 Operations Manager から UCS Central への接続を確認するには、[Test Connection] をクリックします。

（注） テスト接続が失敗した場合、管理者に問い合わせてください。

（注） 証明書のエラーに対しては、アラート ダイアログボックスの指示に従います。

ステップ 8 [Authentication] ダイアログボックスで、ユーザ名とパスワードを入力し、[OK] をクリックします。
UCS Central インスタンスに認証が設定されている場合、ユーザ名を <username@domainname> 形式で入力します。<*domainname*> は、[Administration] > [User Management] > [Authentication in UCS] で設定された UCS 認証です。

（注） Operations Manager コンソール マシンと同じ Active Directory レベルにある管理サーバを選択した場合、ダイアログボックスでモニタリング サービスの状態が検証されます。モニタリング サービスが停止した場合、開始できます。

ローカルの管理者権限があれば、管理サーバに UCS Central インスタンスを追加できます。モニタリング サービスの状態を分析し、リモートからモニタリングを開始するには、ローカルの管理者権限が必要です。

ステップ 9 [Next] をクリックします。

ステップ 10 [Instance Name] タブで、次を入力します。

名前	説明
[Name] フィールド	UCS Central インスタンス名はデフォルトで設定されています。
[Description] フィールド	UCS Central インスタンスの説明を入力します。

[Management Pack] エリアでは、デフォルト設定のまま続けることも、以下のオプションのいずれかを使うこともできます。

名前	説明
[Use Existing Management Pack or Create new] チェックボックス	マークを付けた場合、既存の管理パックを選択してこのインスタンスを保存するか、[New] をクリックして新しい管理パックを作成するかを選択できます。 （注） ドロップダウンリストからデフォルトの管理パックを選択することは推奨しません。

ステップ 11 [Next] をクリックします。

ステップ 12 [Run As Account] タブで、[Add] をクリックします。

ステップ 13 新しい実行アカウントを UCS Central インスタンスに関連付ける場合、[New] をクリックします。

（注） UCS Central での読み取り専用権限があれば、インベントリ データを収集し、UCS Central のエラーをモニタます。障害の確認や KVM コンソールの起動といったアクションを実行するための権限については、http://www.cisco.com/c/en/us/support/servers-unified-computing/ucs-manager/products-installation-and-configuration-gu を参照してください。

ステップ 14 [Next] をクリックします。

ステップ 15 [Summary] タブで構成サマリを確認し、[Create] をクリックします。
UCS Central インスタンスのモニタリング用テンプレートが作成されます。

アカウントの作成

[Add Monitoring Wizard] でのテンプレート追加時に実行アカウントを UCS Central インスタンスに関連付けなかった場合、または UCS Central の現在のアカウントの関連付けを変更する場合、Cisco UCS Central インスタンスを設定します。

Cisco UCS Central のアカウントを作成するには、管理パックで使用される Cisco UCS Central インスタンスのユーザ名とパスワードを使用して実行アカウントを作成します。詳細な手順については、「How to Create a Run As Account」を参照してください。

（注） [General Properties] ページで、[Run-As Account Type] に [Simple Authentication] を選択します。

（注） Cisco UCS Central にドメイン認証が設定されている場合、<*username@domainname*> フォーマットでユーザ名を入力します。<*domainname*> は、[Administration] > [User Management] > [Authentication in Cisco UCS Central] で設定された UCS 認証名です。これらのクレデンシャルは、Cisco UCS Central とのすべての通信に使用されます。

実行アカウントのプロファイルへの関連付け

実行アカウントが作成されたら、そのアカウントを Cisco UCS Central の実行プロファイルに関連付けます。実行プロファイルは、Operations Manager で UCS Central 名を使用して作成されます。アカウントを実行プロファイルに関連付ける方法の詳細については、https://technet.microsoft.com/en-us/library/hh212825.aspx を参照してください。

（注） UCS Central のインベントリ収集および障害モニタリングには、 Cisco UCS Central での読み取り専用権限
障害の確認や KVM コンソールの起動といったアクションの実行については、
http://www.cisco.com/c/en/us/support/servers-unified-computing/ucs-manager/products-installation-and-configuration-g
を参照してください。

第 5 章

エラー確認の設定

この章の内容は、次のとおりです。

- エラー確認の概要，15 ページ
- 解決状態の作成，15 ページ
- チャネルの作成，16 ページ
- サブスクライバとサブスクリプションの作成，17 ページ

エラー確認の概要

Operations Manager コンソールを使用して、 Cisco UCS Central のエラーを確認できます。この設定は、Operations Manager コンソールからの確認アラートについて Cisco UCS と通信するために役立ちます。管理グループ内のどの管理サーバからでもこの機能を設定できます。

（注） UCS Manager 管理パックにエラー確認を設定した場合、UCS Central 管理パックではこれらのタスクを実行しないでください。

解決状態の作成

解決状態を作成するには、https://technet.microsoft.com/en-in/library/hh212928.aspx を参照してください。

（注） 解決状態を説明するような解決状態名を指定します。たとえば、*UCS Acknowledged* などです。

チャネルの作成

ステップ 1 Operations Manager コンソールで、メニュー バーの [Go] タブをクリックします。

ステップ 2 ドロップダウンリストから、[Administration] > [Notification] を選択します。

ステップ 3 [Channels] を右クリックし、[New Channel] > [Command] を選択します。
[Command Notification Channel] ダイアログボックスが表示されます。

ステップ 4 [Description] タブに、チャネルの名前と説明を入力します。

ステップ 5 [Next] をクリックします。

ステップ 6 [Settings] タブで、次を実行します。

名前	説明
[Full path of the command file] フィールド	コマンド ファイルへのパスを入力します。 例： *C:\Windows\System32\WindowsPowerShell\v1.0\powershell.exe*
[Command line parameters] フィールド	チャネルのコマンド ライン パラメータを入力します。 例： *-Command "& 'C:\ProgramData\Cisco\Scripts\AcknowledgeFault.ps1'" -instanceId '$Data[Default='Not Present']/Context/DataItem/Custom1$' -serviceMachineName '$Data[Default='Not Present']/Context/DataItem/Custom9$' -dn '$Data[Default='Not Present']/Context/DataItem/Custom10$' -faultCode '$Data[Default='Not Present']/Context/DataItem/Custom4$' -faultId '$Data[Default='Not Present']/Context/DataItem/Custom6$'* （注） Operations Manager から UCS のエラーを確認するには、コマンドラインパラメータを正しく設定します。
[Startup folder for the command file] フィールド	起動フォルダ名を入力します。 例：`C:\ProgramData\Cisco\Scripts` （注） フォルダを追加する前に、スクリプトのパスと場所を確認します。

ステップ 7 [Finish] をクリックします。

サブスクライバとサブスクリプションの作成

サブスクライバとサブスクリプションを作成するには、
https://technet.microsoft.com/en-in/library/hh212812.aspx を参照してください。

Windows ファイアウォール インバウンド ルールの作成

Cisco UCS モニタリング サービスが稼働しているすべてのマシンでポート 8732 をオープンする、Windows ファイアウォール インバウンド ルールを作成します。これにより、エラー確認 PowerShell スクリプトと Cisco UCS モニタリング サービスとの間の通信が可能になります。

第 6 章

Cisco UCS Central 管理パックのカスタマイズ

この章の内容は、次のとおりです。

- Cisco UCS Central 管理パックのカスタマイズの概要，19 ページ
- Cisco UCS Central インスタンス オブジェクト ディスカバリ，20 ページ
- ルール，21 ページ
- 重大度のマッピング，23 ページ
- 管理パック内のルールの一覧表示，23 ページ
- ルールのオーバーライド，24 ページ
- Cisco UCS Central から別のモニタリング サービスへの移行，24 ページ

Cisco UCS Central 管理パックのカスタマイズの概要

Operations Manager でモニタリングのために追加される UCS Central のそれぞれに対して、Cisco Unified Computing System の [Management Pack Templates] タブに管理パック テンプレートが作成されます。カスタマイズを行うため、管理パックのコンポーネントを理解しておくことが重要です。

Cisco UCS Central インスタンス オブジェクト ディスカバリ

オブジェクトディスカバリはすべて一定間隔で実行され、モニタリングサービスからディスカバリデータを取得するため定期的に実行できます。パック内のオブジェクトディスカバリの一覧を表示するには、以下の手順に従います。

ステップ 1 Operations Manager コンソールで、メニュー バーの [Go] タブをクリックします。

ステップ 2 ドロップダウンリストで、[Authoring] を選択します。

ステップ 3 [Management Pack Templates] > [Cisco UCS Central] を選択します。

ステップ 4 オブジェクト ディスカバリを表示するテンプレート パックを選択します。

ステップ 5 右クリックして [View Management Pack Objects] > [Object Discoveries] を選択します。

Cisco UCS Central Root（オブジェクト ディスカバリ）

これはトップ レベルのオブジェクト ディスカバリであり、 UCS Central に最初に実行するディスカバリです。 Cisco UCS Central のインスタンスを Operations Manager に検出します。このディスカバリは、Cisco UCS モニタリング サービスを使用して Cisco UCS Central からのインベントリとモニタリング情報を取得するために実行します。これらのディスカバリはオーバーライドできます。以降のセクションで、オブジェクト ディスカバリをオーバーライドする方法を説明します。

このオブジェクト ディスカバリで利用可能なオーバーライドのセットを以下に示します。

- CacheClass： UCS Central から収集されるインベントリとモニタリング情報の管理対象オブジェクトを定義します。
- Discovery Level：Operations Manager 内で UCS Central からの組織とサービス プロファイルを検出する最大レベルを定義します。
- Enabled：オブジェクト ディスカバリの有効化状態を定義します。
- Interval Seconds：実行間隔を定義します。
- ShowUnassociatedProfiles：関連付けられた、または関連付けられていないサービス プロファイルを Operations Manager 内で検出するかどうかを定義します。デフォルト値は True で、関連付けられていないサービス プロファイルが表示されます。
- Logging Level：このオブジェクト ディスカバリにロギングを有効化するか無効化するかを定義します。
- Timeout Seconds：ディスカバリ スクリプト実行のタイムアウト時間を定義します。

（注） デフォルトでは、Cisco UCS Central Root ディスカバリは 2 時間（7200 秒）ごとに実行されるようプログラムされており、 Cisco UCS Central からすべての変更を取得します。

オブジェクト ディスカバリのオーバーライド

ステップ 1 Cisco UCS Central インスタンスの [Object Discovery] ページに移動します。

ステップ 2 プロパティをオーバーライドするオブジェクトを選択します。

ステップ 3 右クリックして、[Override] > [Override the Object Discovery] > [For All Objects of Class] を選択します。

ステップ 4 [Override Properties] ダイアログボックスで、次の手順を実行します。

- [Override] チェックボックスにマークを付けます。
- オーバーライド値を変更します。
- [OK] > [Apply] をクリックします。

（注） オーバーライドを使用してオブジェクトディスカバリが有効化された場合、トップ レベル（Cisco UCS Central インスタンス）までのターゲット クラス ディスカバリも有効化されていることを確認します。有効でなかった場合、有効化します。オーバーライドを使用してオブジェクトディスカバリが無効化された場合、このクラスをターゲットとしたクラス ディスカバリすべても、リーフ レベルまで、Operation Manager のモニタリング対象ではありません。

PowerShell コマンドレットを使用したオブジェクト ディスカバリのオーバーライド

PowerShell コマンドレットを使用して、オブジェクト ディスカバリの無効化またはオーバーライドが行えます。詳細については、「Retetrieving, enabling, or disabling UCS Object Discoveries」を参照してください。

ルール

Cisco UCS コア ライブラリ管理パックでは、それぞれの UCS Central の障害についてルールが存在し、UCS テンプレート インスタンスが [Add Monitoring Wizard] から作成された場合はいつでも、ルールが継承されます。

（注） ルールは、Severity が Critical、Major、Minor、Warning、Type であり、FSM や Configuration ではない障害に含まれます。

障害の発生する可能性のある UCS コンポーネントによっては、UCS 障害に対して □ つ以上のルールが存在する場合があります。

たとえば、F10000210 は次の UCS Central コンポーネントで発生します。

"org-[name]/ip-pool-[name]"

この例では、DN を後方から解析すると、Organization が検出されたコンポーネントとなります。このため、次のような 1 つのルールが使用できます。

Fault Rule : Organization.F10000210

さらに、エラー F10000195 についても考えます。これは次の UCS Central コンポーネントで発生します。

"extpol/reg/controllers/contro-[id]"

この例では、各 DN を後方から解析すると、UCS Central 管理パックによって検出されたコンポーネントがありません。このため、Cisco UCS Central のルート クラスをターゲットとする単一のルールが使用でき、次のエラー名となります。

Fault Rule : F10000195

ルールはイベントに基づきます。各ルールでは、Cisco UCS モニタリング サービスによって発生したイベントに基づいて、Operations Manager で複数のアラートを生成できます。

（注） 現時点で、Cisco UCS 管理パックは Cisco UCS Central からの情報性エラーやクリア エラーの Operations Manager での表示をサポートしていません。

（注） UCS Central FSM の障害は一時的な障害であるため、このバージョンの管理パックではサポートされません。理パックでサポートされない FSM エラーの一覧については、次の URL を参照してください。
http://www.cisco.com/c/en/us/td/docs/unified_computing/ucs/ts/faults/reference/2-0/UCSFaultsErrorsRef_20/UCS_FSMs.h

ルールの事前設定

すべての管理パックがインポートされたら、 Cisco UCS Central テンプレートが作成される前に、UI またはコマンドレットによってルールを設定（有効化/無効化）します。設定が完了すると、テンプレートのインポートが可能になり、後から追加されるすべてのテンプレートに設定が有効になります。テンプレートのインポート後にルールの設定を変更するには、ルールを再設定します。これは、既存のテンプレートおよび以降に追加されるすべてのテンプレートに対して自動的に適用されます。

PowerShell コマンドレットを使用したルールの有効化

PowerShellのコマンドレットを使用してルールを有効化できます。詳細については、「Retrieving, Enabling or Disabling UCS Fault Rules」を参照してください。

重大度のマッピング

このセクションでは、 UCS Central の障害の重大度と Operations Manager コンソール内のアラートの重大度との間のマッピングについて説明します。

次の表に、 Cisco UCS Central とルールとの間の重大度のマッピングを示します。

重大度	Cisco UCS（重大度）	ルール（アラートの重大度）
1	Critical、Major	Critical
2	Minor、Warning	警告

（注） デフォルトでは、すべてのルールが有効です。

管理パック内のルールの一覧表示

ステップ 1 Operations Manager のメニュー バーで、[Go] を選択し、[Authoring] を選択します。

ステップ 2 ナビゲーション ペインで、[Management Pack Templates] を選択します。

ステップ 3 [Cisco UCS Central] を選択します。

ステップ 4 Cisco UCS Central インスタンスを右クリックし、[View Management Pack Objects] > [Rules] を選択します。

ルールのオーバーライド

ステップ 1 Operations Manager のメニュー バーで、[Go] を選択し、[Authoring] を選択します。

ステップ 2 ナビゲーション ペインで、[Management Pack Templates] を選択します。

ステップ 3 [Cisco UCS Central] を選択します。

ステップ 4 Cisco UCS Central インスタンスを右クリックし、[View Management Pack Objects] > [Rules] を選択します。

ステップ 5 [Rules] ページで、オーバーライドするルールを選択します。

ステップ 6 ルールを右クリックして、[Overrides] > [Override the Rule] > [For all objects of class] をクリックします。

ステップ 7 [Override Properties] ページで、オーバーライドするパラメータを選択してから、オーバーライド値を変更します。

ステップ 8 [OK] をクリックして [Override] ページを閉じます。

ステップ 9 [Rules] ページを閉じます。

Cisco UCS Central から別のモニタリング サービスへの移行

複数の Operations Manager 管理サーバおよびエージェント管理されたコンピュータが存在する導入では、Cisco UCS モニタリング サービスを複数のコンピュータにインストールして、複数の Cisco UCS Central をモニタリングさせることができます。これは、複数の Cisco UCS Central の負荷を異なる管理サーバおよびエージェント管理されたコンピュータの間で共有するのに役立ちます。その過程で、 Cisco UCS Central のモニタリングを、ある Cisco UCS モニタリング サービスから別のモニタリング サービスに割り当てることが必要になる場合があります。

ステップ 1 Operations Manager コンソールのメニュー バーから、[Go] タブをクリックします。

ステップ 2 ドロップダウン メニューで、[Authoring] を選択します。

ステップ 3 [Management Pack Templates] を選択します。

ステップ 4 [Cisco UCS Central] を選択します。

ステップ 5 Cisco UCS Central インスタンスを右クリックし、[Properties] をクリックします。

ステップ 6 ドロップダウン リストから、別のマシン タイプまたはサービス マシン、または両方を選択します。

ステップ 7 [OK] > [Apply] をクリックします。

第 7 章

Operations Manager を使用した Cisco UCS Central のモニタリング

この章の内容は、次のとおりです。

- Operations Manager の [Monitoring] ペインについて，25 ページ
- 管理パック内のルールの一覧表示，25 ページ
- Cisco UCS のモニタリングについて，26 ページ
- Cisco UCS モニタリング サービス，26 ページ
- Cisco UCS Central モニタリング ダッシュボード，28 ページ

Operations Manager の [Monitoring] ペインについて

Cisco UCS Central 管理パックをインストールおよび設定した後で Operations Manager の [Monitoring] ペインを使用して、モニタリング対象の Cisco UCS Central のサマリとコンポーネントを表示できます。[Monitoring] ペインの [Cisco UCS Monitoring] タブ、[State Dashboard] および [Alert Dashboard] には、UCS Central インスタンスとそのコンポーネントのヘルス ステータスが全面的に表示されます。

管理パック内のルールの一覧表示

ステップ 1 Operations Manager のメニュー バーで、[Go] を選択し、[Authoring] を選択します。

ステップ 2 ナビゲーション ペインで、[Management Pack Templates] を選択します。

ステップ 3 [Cisco UCS Central] を選択します。

ステップ 4 Cisco UCS Central インスタンスを右クリックし、[View Management Pack Objects] > [Rules] を選択します。

Cisco UCS のモニタリングについて

[Cisco UCS Monitoring] タブには、検出された Cisco UCS Central インスタンスのコンポーネントについて、状態とアラートのダッシュボードが表示されます。

このフォルダには、 Cisco UCS Central に関連した以下のサブフォルダが含まれます。

- Management Pack Events
- Cisco UCS Monitoring Service
- UCS Central Monitoring

Management Pack Events

このビューには、Operations Manager でのモニタリング スクリプト実行に関連したアラートが表示されます。下のテーブルに、一般的なエラーの一部の一覧を示します。

Serial No.	エラー コード	エラーの説明	確認項目
1	19900	サービス接続エラー	[Add Monitoring Wizard] のサービスマシン エントリを確認
2	19900	サービスが見つからない、または動作しない	サービスマシンでモニタリング サービスが稼働しているかどうかを確認
3	19900	アプリケーションのエラー	アカウントがプロファイルに関連付けられているかどうか、およびそのアカウントに UCS インスタンスへの接続が許可されているかどうか確認

Cisco UCS モニタリング サービス

Cisco UCS Monitoring フォルダは、[Monitoring Service Dashboard] と、[Monitoring Service Statistics] によって構成されています。[Monitoring Service Dashboard] には、その管理グループ内で接続され、サービスがインストールされたマシンすべてのヘルス ステータスが含まれます。

[Monitoring Service Statistics] には、スレッド カウント、IO Write Bytes/Sec、Elapsed Time、IO Read Bytes/Sec、% User Time、% Processor Time、および Page Faults/Sec の統計グラフが含まれます。

グラフを選択すると、画面の下部に凡例が表示されます。グラフ形式で統計値を表示するかどうかに応じて、インスタンスのマークを付けるか、マークを外します。

サービスの開始

Cisco UCS Central のモニタリングに使用されているモニタリング サービスを停止すると、[Alert] ビューにアラートが生成されます。[Start Service] タスクをクリックして、Operations Manager コンソールからリモートでモニタリング サービスを開始します。

ステップ 1 Operations Manager コンソールを起動します。

ステップ 2 メニュー バーから、[Go] タブをクリックします。

ステップ 3 ドロップダウン メニューから、[Monitoring] を選択します。

ステップ 4 [Cisco UCS Monitoring] > [Cisco UCS Monitoring Service] > [Monitoring Service Dashboard] を選択します。

ステップ 5 [Monitoring Service] を選択します。

ステップ 6 [Tasks] ペインから [State View] をクリックします。

ステップ 7 [Start Service] をクリックします。

サービスの停止

モニタリング サービスが Cisco UCS Central のモニタリングに使用されなくなった場合、Operations Manager コンソールからモニタリング サービスを停止できます。

ステップ 1 Operations Manager コンソールを起動します。

ステップ 2 メニュー バーから、[Go] タブをクリックします。

ステップ 3 ドロップダウン メニューから、[Monitoring] を選択します。

ステップ 4 [Cisco UCS Monitoring] > [Cisco UCS Monitoring Service] > [Monitoring Service Dashboard] を選択します。

ステップ 5 [Monitoring Service] を選択します。

ステップ 6 [Tasks] ペインから [State View] をクリックします。

ステップ 7 [Stop Service] をクリックします。

（注） Operations Manager で追加されたすべての Cisco UCS モニタリング サービスが正常な状態であることを確認します。アラート ダッシュボードで、ヘルス ステータスを確認できます。

Cisco UCS Central モニタリング ダッシュボード

Cisco UCS Central Instance フォルダには、Operations Manager のモニタリング対象である各 Cisco UCS Central インスタンスのためのサブフォルダが含まれます。UCS Central Monitoring フォルダには、以下のサブフォルダが含まれます。

- UCS Central Alert Dashboard： UCS Central 内で生成されたすべてのアラートが表示されます。アラートはさらに以下のビューに分類されます。
  - [Active Alerts]
  - [Acknowledge Alerts]
  - [Cleared Alerts]
- UCS Central Diagram：すべてのインスタンスについて、さまざまな UCS Central コンポーネント間の関係をグラフィカルに表示します。
- UCS Central State Dashboard：Cisco UCS Central について、ヘルス ステータスとその他のインベントリ情報を表示します。

UCS Central GUI の起動

UCS Central GUI を起動するには、Operations Manager アプリケーションのかどうしているコンピュータと、 Cisco UCS Central との間のネットワーク接続が利用可能であることが必要です。

ステップ 1 Operations Manager コンソールのメニュー バーで、[Go] タブをクリックします。

ステップ 2 ドロップダウン メニューから、[Monitoring] を選択します。

ステップ 3 [Cisco UCS Monitoring] > [UCS Central Monitoring] > [UCS Central State Dashboard] を選択します。

ステップ 4 Cisco UCS Central を起動する必要がある、ターゲット Cisco UCS Central を選択します。

ステップ 5 [Tasks] ペインで、 [Launch UCS Central GUI] をクリックして Web UI を起動します。

UCS Central インベントリ データのロード

ステップ 1 [Monitoring] ペインで、[Cisco UCS Monitoring] > [UCS Central Monitoring] > [UCS Central State Dashboard] と展開します。

ステップ 2 Cisco UCS サーバのデータをロードする必要があるグループを選択します。
[Cisco UCS Central Instance Tasks] ペインで、[Load UCS Inventory Data] を選択します。

ステップ 3 [Load Cisco Inventory Data] をクリックします。
[Run Task- Load UCS Inventory Data] ダイアログボックスが表示されます。

ステップ 4 [Run] をクリックして、インベントリ データ出力をロードします。

ステップ 5 [Close] をクリックして、ダイアログボックスを終了します。

UCS Central への ping

Ping を使用して、Operations Manager コンソールと Cisco UCS Central との接続をチェックします。

ステップ 1 Operations Manager のメニュー バーで、[Go] タブをクリックします。

ステップ 2 ドロップダウン メニューから、[Monitoring] を選択します。

ステップ 3 [Cisco UCS Monitoring] > [UCS Central Monitoring] > [UCS Central State Dshboard] を選択します。

ステップ 4 UCS Central インスタンスを選択します。

ステップ 5 [Tasks] ペインで、[State View] を選択します。

ステップ 6 [Cisco UCS Tasks] ペインで、[Ping UCS Central] を選択します。

ステップ 7 出力の詳細を確認し、[Close] をクリックして終了します。

UCS への継続的な ping

継続的な Ping（ping-t）を使用して、Operations Manager コンソールと Cisco UCS Central との接続をチェックします。

ステップ 1 Operations Manager のメニュー バーで、[Go] タブをクリックします。

ステップ 2 ドロップダウン メニューから、[Monitoring] を選択します。

ステップ 3 [Cisco UCS Monitoring] > [UCS Central Monitoring] > [UCS Central State Dshboard] を選択します。

ステップ 4 リストから、 UCS Central を選択します。

ステップ 5 [Tasks] ペインで、[State View] を選択します。

ステップ 6 [Cisco UCS Tasks] ペインで、[Ping UCS Continuously (ping-t)] を選択します。

ステップ 7 出力の詳細を確認し、[Close] をクリックして終了します。

論理インベントリ

Cisco UCS Central について、ヘルス ステータス、インベントリ、障害情報、および コンポーネントのさまざまなビューと洞察を提供します。

それぞれの UCS コンポーネントについて、以下のダッシュボードを表示できます。

- Alert Dashboard
- Diagram View
- State Dashboard

組織の詳細情報の表示

Organization フォルダにあるさまざまなビューとフォルダによって、 UCS Central の各種論理コンポーネントのヘルス ステータス、インベントリ、および障害情報が得られます。以下の図とサブフォルダを表示できます。

- [Organization Alert Dashboard]：すべての組織とそのコンポーネントについて、アクティブ、確認済み、クリア済みのアラートをさまざまなビューで表示します。このビューには、管理パックの直接のモニタリング対象ではないオブジェクトからのアラートも表示されます。アラートはさらに以下のビューに分類されます。
  - [Acknowledge Alerts]
  - [Cleared Alerts]
- [Organization State Dashboard]：組織のヘルス ステータスおよび Cisco UCS Central の関連情報が表示されます。

（注） デフォルトでは、管理パックによって 3 つのレベルの組織とそのコンポーネント（サービス プロファイル）が検出されます。3 つ以上のレベルを検出する場合、Cisco UCS Central インスタンスの [Object Discovery] で [Discovery Level] をオーバーライドします。

（注） デフォルトでは、関連付けられたグローバル サービス プロファイルのヘルス ステータスとアラートが表示されます。以下の手順を実行して、[ShowUnassociatedProfiles] を [True] にオーバーライドできます。

1. [Authoring] > [Cisco UCS Central] > [UCS Central Instance] を選択する。
2. 右クリックし、[View Management Pack Objects] > [Object Discoveries] > [Cisco UCS Instance Discovery] を選択する。
3. [Overrides] > [Override the Object Discovery] > [for all objects of class] を右クリックし、関連付けられていないサービス プロファイルのヘルス ステータスとアラートを表示する。

サービス プロファイル

サービス プロファイルに関連する以下の内容を確認できます。

- [Service Profile Alert Dashboard]：すべてのサービス プロファイルのアクティブ、確認済み、クリア済みアラートを個別のビューに表示します。
- [Service Profile State Dashboard]：すべての Cisco UCS Central について、サービス プロファイルと関連情報をすべて表示します。

アラート操作

UCS 障害の確認応答

Cisco UCS Central の障害のために管理パックによって Operation Manager アラートが作成されたときに、この操作を実行できます。この操作によって、 Cisco UCS Central の障害を Operations Manager コンソール自身から確認できます。

ステップ 1 Cisco UCS Central に属する Operations Manager でアラートを選択します。

ステップ 2 アラートを右クリックし、[Set Resolution State] を選択します。

ステップ 3 [UCS Acknowledged] をクリックし、解決状態に設定されます。

アラートの専門知識項目の表示

専門知識項目には、Operations Manager で生成されるアラートについてのより詳細な情報が用意されています。この管理パックでは、Operations Manager でアラートとして生成されるすべての UCS 障害について、それぞれ専門知識項目がサポートされています。専門知識項目は、ユーザが障害の原因、説明、解決手順といったアラートに関する追加情報を得るのに役立ちます。アラートの解決には、解決手順に従う必要があります。

ステップ 1 Operations Manager で UCS Central アラートを選択します。

ステップ 2 アラートを右クリックし、[Properties] を選択します。

ステップ 3 [Properties] ウィンドウで [Product Knowledge] タブをクリックします。

アラートのクリア

Cisco UCS Central で障害や条件がクリアされると、Operations Manager の対応するアラートがクリア済み状態に設定されます。Operations Manager コンソールのアラートを終了するためのマニュアル アクティビティは不要です。

デフォルトでは、90 秒ごとにすべてのアラートがクリアされます。ただし、この間隔は変更できます。

アラートのクリアと更新
ルール名：Cisco UCS Update and Close Alert Rule

ターゲット：すべての管理サーバ リソース プール

オーバーライド可能なパラメータ：

- Enabled：このパラメータは、ルールの有効化または無効化に使用されます（デフォルト値：true）。
- EventQueryIntervalInSeconds：このパラメータは、イベントをクエリする間隔を設定するために使用されます（デフォルト値：120 秒）。
- Interval Seconds：このパラメータは、ルールを実行する周期を設定するために使用されます（デフォルト値：90 秒）。
- Logging：ロギングを設定します（デフォルト値：false）。
- Timeout Seconds：ルールのタイムアウト間隔を設定します（デフォルト値：60 秒）。

第 8 章

Cisco UCS Central 管理パック向け PowerShell コマンドレット

この章の内容は、次のとおりです。

- PowerShell モジュールからのコマンドレットのインポート，33 ページ
- UCS Central インスタンスの追加または更新，34 ページ

PowerShell モジュールからのコマンドレットのインポート

ステップ 1 管理サーバで、Operations Manager Shell を開きます。
Cisco PowerShell モジュールは、管理グループ内のすべての管理サーバで共有されます。

（注） CiscoUcsCentralScomPs モジュールは `%PROGRAMDATA%\Cisco\Modules` にインストールされます。

ステップ 2 CiscoUcsCentralScomPs モジュールをインポートします。

ステップ 3 CiscoUcsCentralScomPs モジュールのすべてのコマンドレットを表示するには、PowerShell のウィンドウで Get-Command -Module CiscoUcsCentralScomPs コマンドを使用します。

（注） 別の PowerShell セッションを使用している場合、先に OperationsManager モジュールをインポートしてから CiscoUcsCentralScomPs モジュールをインポートします。

UCS Central インスタンスの追加または更新

Add-UcsCentralScomInstance

このインスタンスに追加する、既存の管理パックまたは新しい管理パックの名前を指定します。何も入力しないと、インスタンスと同じ名前で新しい管理パックが作成されます。

```
Add-UcsCentralScomInstance -UcsIPAddress <string>
-MachineType <string> {Agent Managed Computer
(Trusted Boundary) | Agent Managed Computer
(Untrusted Boundary) | Management Server |
Gateway Server} -MachineName <string>
-InstanceName <string> [-Port <int>]
[-ManagementPackName <string>] [-Description <string>]
[-ProxyHost <string>] [-ProxyPort <int>]
[-ProxyUsername <string>][-ProxyPassword <string>]
[-ExistingRun As Account <string>]

Add-UcsCentralScomInstance -UcsIPAddress <string>
-MachineType <string> {Agent Managed Computer
(Trusted Boundary) | Agent ManagedComputer
(Untrusted Boundary) | Management Server |
Gateway Server} -MachineName <string>
-InstanceName <string> -RunAsAccoun<string>
-RunAsCredential <pscredential> [-Port <int>]
[-ManagementPackName <string>] [-Description
<string>] [-ProxyHost <string>][-ProxyPort <int>]
[-ProxyUsername <string>] [-ProxyPassword <string>]

Add-UcsCentralScomInstance -UcsIPAddress <string>
-MachineType <string> {Agent Managed Computer
(Trusted Boundary) | Agent Managed Computer
(Untrusted Boundary) | Management Server |
Gateway Server} -MachineName <string>
-InstanceName <string>-ExistingManagementPack
<ManagementPack> -Description <string>
-Run As Account <string> -RunAsCredential
<pscredential> [-Port <int>][-ProxyHost <string>]
[-ProxyPort <int>] [-ProxyUsername <string>] [-ProxyPassword <string>]

Add-UcsCentralScomInstance -UcsIPAddress <string>
-MachineType <string> {Agent Managed Computer
(Trusted Boundary) | Agent Managed Computer
(Untrusted Boundary) | Management Server |
Gateway Server} -MachineName <string>
-InstanceName <string>-ExistingManagementPack
<ManagementPack> -Description <string> [-Port <int>]
[-ProxyHost <string>] [-ProxyPort <int>]
[-ProxyUsername<string>] [-ProxyPassword <string>]
[-ExistingRun As Account <string>]
```

Update-UcsCentralScomInstance

```
Update-UcsCentralScomInstance [-InstanceName]
<string> [[-UcsIPAddress] <string>] [[-Port]
<string>] [[-MachineType] <string>
{Agent Managed Computer (Trusted Boundary) |
Agent Managed Computer (Untrusted Boundary) |
Management Server | Gateway Server}]
[[-MachineName] <string>] [[-Description] <string>]
[[-ProxyHost] <string>] [[-ProxyPort] <int>]
[[-ProxyUsername] <string>] [[-ProxyPassword] <string>]
```

Get-UcsCentralScomDiscovery

```
Get-UcsCentralScomDiscovery -InstanceName <string>
Get-UcsCentralScomDiscovery -InstanceName <string> -ClassName <string
Get-UcsCentralScomDiscovery -InstanceName <string> -DiscoveryName <string[]>
```

Enable-UcsCentralScomDiscovery

```
Enable-UcsCentralScomDiscovery [-Discovery] <ManagementPackDiscovery[]>
```

Disable-UcsCentralScomDiscovery

```
Disable-UcsCentralScomDiscovery [-Discovery] <ManagementPackDiscovery[]>
```

Get-UcsCentralScomRule

```
Get-UcsCentralScomRule [[-Class] <string[]>] [[-FaultID] <string[]>]
```

Enable-UcsCentralScomRule

オーバーライドが追加された管理パックの名前を指定します。

```
Enable-UcsCentralScomRule [-Rule]
<ManagementPackRule[]> [-ManagementPackName] <string>
```

Disable-UcsCentralScomRule

オーバーライドが追加された管理パックの名前を指定します。

```
Disable-UcsCentralScomRule [-Rule]
<ManagementPackRule[]> [-ManagementPackName] <string>
```